

中生代と新生代の巨大陸上脊椎動物の研究



自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

三枝 春生

1. ミャンマーの後期新生代の長鼻類化石の研究

京都大学霊長類研究所の霊長類化石探索プロジェクトの一環としてミャンマーの後期新生代の地層であるイラワジ層とペグー層から大量に産出する長鼻類（ゾウの仲間）の化石を研究しています。19世紀から20世紀初頭にかけての古典的な研究を除くとミャンマーの長鼻類の化石に関するまとまった研究は、一世紀近く行われていません。しかし、ミャンマーの長鼻類の化石は極めて多様です。今後これら化石の分類学的な研究を進めインドシナにおける長鼻類の進化を明らかにしたいと思っています。



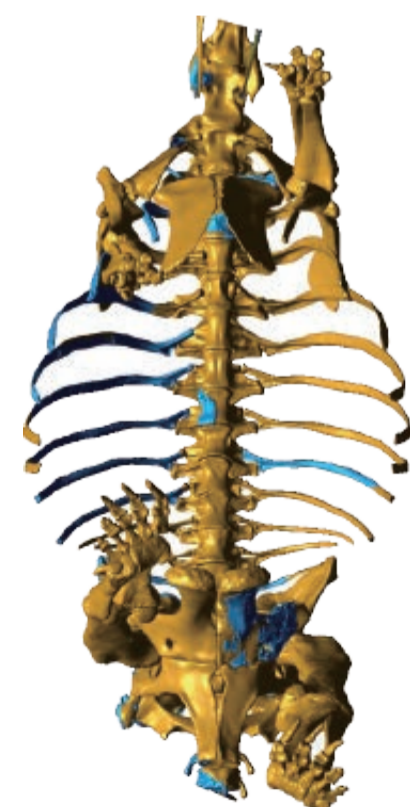
カボ—砂岩産長鼻類臼歯化石 (臼歯付きの下顎骨や上顎骨)



ヤンゴンのザイカバー博物館所蔵の長鼻類化石



アルゼンチン産ティタノサウルス類エパクトサウルスの骨盤



タンバティタニスの胴体骨格復元

2. 竜脚類の胴体形状の研究

竜脚類は首の長い巨大な植物食恐竜で、体長30数メートル、体重が数10トンという地球史上最大の陸生動物が含まれています。体重の推定には胴体の形状の復元が重要ですが、肋骨の研究が十分にされていないために、胴体の形状が明らかな竜脚類はほとんどありません。そこで、竜脚類の中でもとくに幅の広い胴体を持っていたと考えられるティタノサウルス類を中心に肋骨の形状と胴体形状の関連性を研究しています。この研究をつうじて、地球史上最大の陸生動物の謎に迫れればと思っています。